

くまもと未来ネット通信

Kumamoto Mirai Net Working Report

コミュニティ財団である「くまもとSDGs推進財団」が発足しました。くまもと未来ネットからも多くの理事が参画し立上げを支援して来ましたが、体制を整えるのに準備期間が長く掛かりましたが、その間、議論が積み重なり多くの方々に関与が広がりました。個人や企業からの寄付などの収入、それを分配していく仕組み、財団名に掲げたSDGsの構築支援・周知活動、具体化はこれからです。くまもと未来ネット共々、「くまもとSDGs推進財団」へのご支援をよろしくお願い致します。

※くまもと未来ネットは、持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。
右肩に示したアイコンは記事に関連したSDGs 17の目標からの引用です。

■世界フェアトレードディ熊本を開催

テーマ「SDGs vs フェアトレード」

熊本地震から3年が経過し、「誰も取り残さない」を合言葉に、久しぶりにフェアトレードのイベントを開催しました。



※他に、1,2,5,8,13が該当します。



準備期間は1ヶ月、当日のスタッフは4人で会場設営など手が回りませんでした。地震の経験が役に立ったかのように参加者さんが和気あいあいと手伝ってくださり、運営もスムーズに運びました。

名刺交換では、県外の方が目立ちました。ちょうど60人の参加で、数日前に満員御礼の案内を出したほど、すぐに定員いっぱいになりました。

まずは、下関市立大学の長濱先生のフェアトレードとSDGsの説明をしていただきました。そして、SDGs17項目に17人の登壇者の3分間スピーチ。熊本の現場の活動発表をしたことで、企画した私にとっては目から鱗、17の要素を持つ活動が生き生きと語られ、熊本県

としての全体の成果発表のようになりました。今後さらに続けていくと、もっと大きな流れになるのではと、期待できるイベントになりました。（明石祥子）



■九電play forest in 水前寺 へ出展

6月8日、水前寺成趣園にて開催されました「きゅうでんプレイフォレスト（主催：九州電力）」にて、以下の2つのプログラムで出展しました。

- 「森の贈りもので風車をつくろう」
- 「どうぶつたちのお家はどこかな？」

風車作りではご協力いただいた中島夫妻の軽快かつ豊富な知識で子供達はもちろん、親御さんも自然の素材を利用して楽しく風車を作ることができました。フーッと息を吹きかける想像以上にクルクルクルっと回る風車に子供達も大満足でした。また、精密なジオラマと、これまた実物と見間違ふほどの動物のフィギュアを使った「どうぶつのお家はどこかな？」のプログラムでは、「オオサンショウウオは綺麗なお水があるところに住んでるんだよ！どこに綺麗なお水って出ると思う？」と子供達に投げかけ、地形を見ながらしっかりと考えてもらいました。中にはスタッフよりも詳し

い未就学児のお子さんも。

子供達への啓蒙もそうですが、好き！を伸ばせる機会をもっともっと作っていかねければと改めて考えさせてもらえる機会となりました。

ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。
（林 信吾）



ジオラマと動物のフィギュア

■アースウィークくまもと2019、30周年記念

「熊本からはじまる電気バス」と「自転車」が
ひらく未来を語ろう！

アースウィークくまもとは、1990年から地球温暖化防止のために「自転車・バス・電車に乗ろう！」と訴えてきました。温暖化により世界各地で気候変動の影響が深刻化する地球の危機を回避しようと世界196カ国が採択した「パリ協定」が2016年11月に発効。今世紀末までに脱炭素の実現が必須となりました。

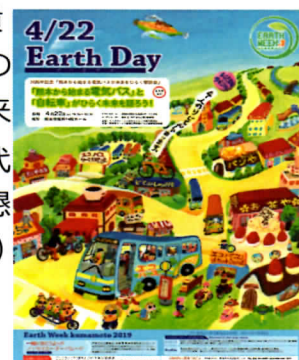
交通部門からの温室効果ガス排出量が約2割を占める熊本。脱炭素社会の課題でもある交通とまちのあり方を語り合う「電気バスが未来をひらく懇談会」を4月22日に熊本市役所14階ホールで開催。多彩なスピーカーに夫々の視点から交通・まちづくりの現状、課題、希望等を語っていただきました。

電気バス開発者の松田俊郎准教（熊本大学大学院先端科学研究所）は、横浜でも大規模な実証実験が始まる電気バスの本格的普及に向けた

戦略を熱く話されました。熊本県環境立県推進課金丸課長補佐は「低炭素社会の実現に向けた県の取り組み」を、熊本市環境政策課栢田課長は「脱炭素のまちづくり」を紹介。

電気バス実証実験に協力された九州産交バスの森敬輔社長は、バス事業の苦しい状況を交えながらも公共交通活性化への期待と夢を、自転車二輪車商協同組合の河島さんは自転車が安全に走れるまちづくりの必要性等を語られました。

最後に熊本大学の環境工学科交通まちづくり研究室4年生の宮崎一貴さんが、研究室全員での熱心な議論を発表。未来のまちづくりを担う世代の存在に意を強くした懇談会でした。（原 育美）





■ソーラーシェアリングへの取り組み

農地の上に隙間の空いた太陽光パネルを設置することで、農作物の生育や収穫量などに全く影響のない形で農業をしながら太陽光発電を行うことができる「ソーラーシェアリング」。生物には「光飽和点」というものがあり、太陽の光を浴び過ぎてても生育はそれ以上は進みません。したがって、作物によっては太陽の光を少しくらい遮っても問題なく生育します。

去る9月上旬、実際にソーラーシェアリングを導入されている山口県の農家さんを訪問させていただきました。2反強の田んぼに発電出力49.5kWの太陽光パネルが設置されています。パネルの下も、パネルの無いところも変わらぬ生育。農作業もやりやすいとのこと。

しかし、ソーラーパネルの設置にはもちろん資

金が必要となります。そこで今私たちが推奨している方法が、「農家の資金負担ゼロ」で賃料として毎年収益を得ていただく仕組みです。資金調達や各種申請業務、工事の手配等は私たちが行います。農家の方々にはこれまでと変わらない農業収益にプラスして賃料収益を同時に得られるようにします。継続的な支援としてこの「ソーラーシェアリング」の仕組みづくりも応援していただけると幸いです。（西村多美）



■脱原発セミナーへの参加とソーラーシェアリング事業への打合せ

8月2日は朝からセミナー「原発ゼロ社会を目指して・私達の課題」への参加とソーラーシェアリングの打合せで、理事4名で東京へ。

基調講演は「原発ゼロで日本経済は再生する」城南信用金庫顧問の吉原毅氏（ふじわらつよし）氏。3.11以降、金融機関で初めて原発反対を公に示した方だ。吉原さんの講演は初めて聞いたが、歴史的な背景から、脱原発・自然エネルギーによる経済成長のロジックまで、金融機関らしく理論明快である。スピード感ある話だったが、まだまだ多くの話が控え時間が足りないほどであった。



午後からのシンポジウムは原発を立地している自治体から実際に活動している方々（茨城県東海村、新潟県柏崎市、静岡県浜岡市）を迎え、ISEP（認定NPO法人環境エネルギー研究所）所長の

飯田氏をコーディネーターに、「原発立地自治体の課題」として運動の経緯や原発立地自治体が抱える問題が議論された。脅しなどに耐え活動が続けられ、今からは使用済み核廃棄物や廃炉の問題が続く。大変な事だ。

その後、協働先のISEPとのミーティングを行い、夕方からはISEP飯田さんの計らいで、本日の基調講演をされた城南信用金庫顧問の吉原氏に表敬訪問をすることになった。よくドラマで見るとような重厚な家具が置かれた応接室で緊張しながら、くまもと未来ネットの活動概要を伝え、城南信用金庫の活動ポリシーを伺った。「これからの銀行は企業を育て社会活動をする会社になるのです」と言われた事が強く印象に残った。（井上智）



城南信用金庫さんと

【今回のキーワード】

■SDGs (Sustainable Development GOALS : 持続可能な開発目標)

2015年9月の国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。この文書の中核を成す2030年までに達成すべき目標（具体的行動指針）です。持続可能な世界を実現するための17の目標・169のターゲットから構成され、SDGsは発展途上国のみならず、先進国も取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。

■フェアトレード (Fair Trade : 公平・公正な貿易)

開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易のしくみです。 <https://www.fairtrade-jp.org/>

■ソーラーシェアリング (Solar Sharing : 営農型発電設備、同じ農地で農業と発電事業を同時に行うこと)

田んぼや畑などの農地で、農業と発電事業を同時に行うことであり、農業は、太陽光発電の架台の下で空間で行なう。田や畑の上に、ソーラーパネルを藤棚のように地面から2.5m～3.5mの高さに設置し、地面の農作物の生育に必要な日照を確保（日照をシェアリング）しながら、隙間を開けて並べ発電し安定収入を得ます。

編集後記 (SDGsの目)

SDGsの意味を理解する学習が多く行われ始めているが、重要なのは実際の社会をその理念に合致させていく行動である。そのSDGsの社会適合性を考え理解する上で新聞記事はとても良い材料だと思う。今年は台風が大型化し各地が被災したが、CO2増加（気候変動）による海水高温化、熱帯雨林地域の火災焼失やパーム油のプランテーションなど、気候変動には我々の生活（行動）が大きく関与している。熊日新聞が第2回SDGs特集（10記事）で“グリーンコープくまもと”の取り組みを追っている。食を中心として、遺伝子組み換えや自然エネルギーや被災者支援など、生協活動の多くが先立ってSDGsの活動であった事を綴っている。また、阿蘇グリーンストックの設立支援やアースウィークくまもとへの長期のご支援もいただいている。市民（参加組合員）ベースの継続的な活動は再評価を願いたいと思う。ありがとうございます。

ご支援・ご協力をありがとうございます (2019.4～2019.9)

【正会員】

(個人)九州太陽電池工業(株)、宇野昭彦、原育美、宮北隆志、井上智、永村税理士事務所、渡辺利男、北部病院、立山ちづ子、鬼海洋一、白井工業(株)、田上辰也、田尻和子

(法人)(株) 株調剤

【賛助会員】

(個人)吉川美加、エコワークス(株)

(法人・団体)一般社団法人熊本県労働者福祉協議会、公益財団法人阿蘇グリーンストック

【維持会員】九州太陽電池工業(株)、宇野昭彦、原育美、宮北隆志、井上智 ※敬称は省略しております。

寄付・会費等のお支払いは以下の口座へよろしくお願い致します。

肥後銀行 味噌天神支店	普通預金 1495574	NPO法人 くまもと未来ネット
九州労働金庫 熊本支店	普通預金 2702440	NPO法人 くまもと未来ネット

【発行】



NPO法人
くまもと未来ネット
Kumamoto Mirai Net

〒862-0942 熊本市東区江津1-7-17

TEL 096-362-3776 / FAX 096-200-6395

E-mail: home@kumamoto-mirai.com

☆最新情報はFacebookをご覧ください <https://www.facebook.com/kankuma1994/>

★★★少し歩くと熊本市のオアシス上江津湖へ行ける場所へ引っ越しました★★★